

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会  
〒102-0082 東京都千代田区一番町 23 番地 3  
日本生命一番町ビル 5 階  
公益社団法人 青年海外協力協会 気付  
E-mail: info@japan-malawi.org  
Home Page http://www.japan-malawi.org/

## 【マラウイ共和国】

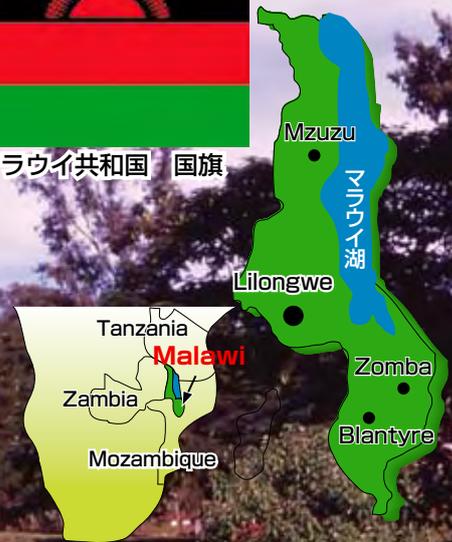
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)  
人口：1636 万人 (2013 年世界銀行)、首都：リロングウェ  
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語  
政体：共和制、大統領：ピーター・ムタリカ  
為替レート：US\$ 1 = MK 729.954 (3 月 2 日現在)  
MK 1 = 0.15 円 (3 月 2 日現在)

## 【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：196人(3月現在)



マラウイ共和国 国旗



## レポート マラウイの食糧不足

昭和51年度1次隊  
理数科教育 鶴田 伸介

### 1 食糧不足の状況と対処計画

(出典：2015/2016 National Food Insecurity Response Plan (2015年9月))

マラウイは2015年1月の歴史上最悪の洪水につづいて広範かつ長期にわたる日照りに見舞われた。日照りは被害を受けやすい南部だけではなく従来は食糧余剰地域である中部と北部にもおよんだ。マラウイがとうもろこしの不足を経験するのは過去10年で最初であり農業投入補助プログラム(FISP) 導入以来最初でもある。2014/15年生育期のとうもろこしの生産は2013/14年生育期の約398万トンから約278万トンへと約30%落ち込んだ。その結果、人口の約17%にあたる約283万人が主に2015年10月から2016年3月までの期間に食糧支援を必要とすると推計された。

洪水とかんばつの被災者は全国28県中Nkhata Bay, Likoma, Ntchisi を除く25県にわたり、合計約12.4万トンのとうもろこし相当の食糧支援が必要とされた。支援方法としては、約7割の対象者には食糧現物支援、約3割の対象者には現金支援とすることが提言された。

支援は、6クラスター(グループ) 態勢で実施し、予算は約1億4,600万ドルとされた。

クラスター	リーダー	国連の共同リーダー
食糧確保	Department of Disaster Management Affairs	WFP
農業	Ministry of Agriculture, Irrigation and Water Development	FAO
栄養	Ministry of Health	UNICEF
教育	Ministry of Education, Science and Technology	UNICEF
保護	Ministry of Gender, Children, Disability and Social Welfare	UNICEF
調整	Department of Disaster Management Affairs	UN Resident Coordinator's Office

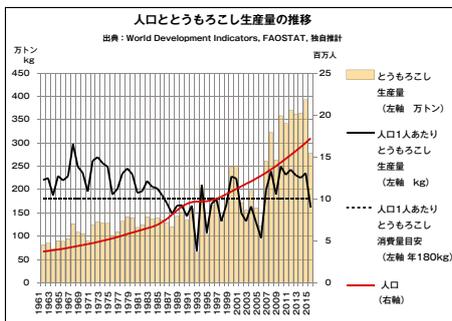
各クラスターには、リーダー機関と国連の共同リーダー機関のほかに、政府機関、マラウイ NGO、国際 NGO、国連機関などが参加する。

### 2 食糧不足の理解と解決案

#### (1) 人口ととうもろこし生産量の推移

過去の推移を見ると、人口増加にくらべてとうもろこし生産量の増加の安定性は低く、国内生産が伸び悩むと国内需要に届かなくなっている。

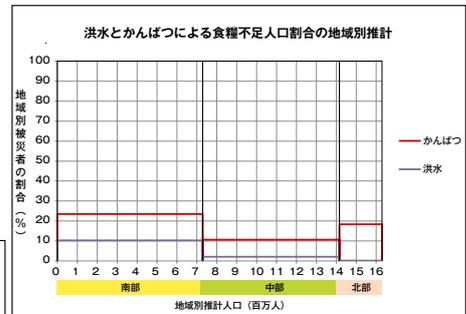
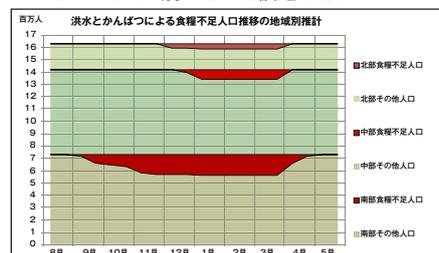
人口ひとりあたりで見ると国内生産量は消費量の目安(ここでは180kg/年と仮定)を上下している。



#### (2) 洪水とかんばつによる食糧不足人口の推計

National Food Insecurity Response Plan による被災者数の推計結果は以下のように解釈できる。

- ・とうもろこしの1年間1人あたり平均消費量は約184kg。1か月あたりでは約15kg。
- ・食糧不足の月におけるとうもろこしの不足量は1人あたり約9kg。つまり1か月の消費量の約60%。このことは不足期間においても消費量の40%は別に調達されるという想定か、または不足時には通常の60%でよいとの想定かは不明。
- ・県別に不足月数が示されており、ここでは大部分は3月まで不足すると仮定した。
- ・洪水被害者ととかんばつ被害者の重複については不明であるが、同報告書では両者を足しているため、ここでは別のものと仮定した。



(3) 食糧不足を解決するための主な要因のまとめ  
National Food Insecurity Response Plan やその他の政府と国際機関の主な提言は、大略以下のようにまとめられる。

需要へのとりくみ	供給へのとりくみ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・とうもろこしへの高い依存から多様な食生活への移行</li> <li>・世帯と政府の購買力の強化</li> <li>・農業以外の産業の振興と雇用の創出</li> <li>・健全な都市の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業技術・投入物の向上(高収糧品種、早生種、水不足に強い品種の導入を含む)</li> <li>・作物の多様化(輸出農産品の多様化を含む)</li> <li>・農民あたりの農地面積減少をとめる</li> <li>・天水農業からかんがい農業への移行</li> <li>・大雨・洪水への施設整備</li> <li>・危険地域からの退去</li> <li>・森林の維持</li> <li>・エルニーニョ対応策と緩和策</li> <li>・地球温暖化対策</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方の道路整備</li> <li>・水、衛生、電力の整備</li> <li>・必要に応じた食糧の輸入と国内流通</li> <li>・さまざまなレベルでの食糧の備蓄</li> <li>・農産物市場の機能強化</li> <li>・農業開発販売公社(ADMARC)の機能の明確化と強化</li> <li>・外国直接投資の促進</li> <li>・人口増加の抑制</li> <li>・貧困削減(生存ぎりぎりの脆弱な生活基盤からの離陸、孤児の支援を含む)</li> <li>・全段階の教育(人権教育を含む)、保健(HIV/AIDS対策、関係者支援を含む)、仕事の好循環の創出</li> <li>・マクロ経済の安定</li> <li>・政府・財政の強化(キャッシュゲート事件からの立ち直りを含む)</li> <li>・食糧生産意欲をそがない食糧援助(たとえば地元での調達促進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然要因へのとりくみ</li> </ul>

### 3 今後の展開

1992年や2005年ほどではないものの2014/15年生育期のとうもろこしの生産量は大幅に落ち込み国内需要の7%を超える不足が生じた。さらに

現在の天候不順をはじめとする変調の結果、今後の収穫不足とその後の食糧不足が懸念されている。

現在の食糧不足の一因は異常な気象であるが、気象の変動は程度の差はあっても今後とも続くと考えざるを得ない。一方、異常気象以外の要因も重要である。今までも例年並みの気象条件で国としては食糧余剰であっても食糧不足は発生している。生存がやっとの貧困層では自然・社会・経済のちょっとした変動で食糧不足が深刻になっている。したがって、言うはやすくではあるが、総合的で強力な取り組みが求められている。

## レポート マラウイ・ウォームハートプロジェクト報告

### セカンダリースクール進学を目指して！ 小学校校舎修復プロジェクト

#### 平成 26 年度 2 次隊 青少年活動 長根尾 和子

#### 実施背景

2015 年 11 月に起こった強風の影響で、本プロジェクトの対象校となっているリワワジ小学校の 8 教室中 4 教室の屋根が吹き飛ばし、直射日光が当たる屋根なしの建物の中で約 650 人の児童生徒が授業を受け続けていることが本プロジェクトを立案するに至った背景である。

#### 実施状況

プロジェクトを立ち上げるに際して実施したプロセスを以下に示す。

日付	活動内容	担当者・参加者
1月6日(木)	JOCV が新聞 VC からプロジェクトが承認されたと連絡を受ける。	JOCV
1月7日(木)	JOCV がマラウイ協会より送金された USD2,499.80 の入金を確認をし、クワチャ口座に MKW1,683,760.03 全額換金をする。 新聞 VC にその旨を報告する。	JOCV
1月8日(金)	校舎修復に向けての話し合いを持つ。 決定事項： 1) フェーズ 1 と 2 で修復完了 2) 作業期間 (3 週間) と作業の役割分担 MKW380,500 を JOCV が校長と会計に渡す。	JOCV / 校長 / 教頭 / 学校運営委員長 / 副会長 / 会計 / 業者 JOCV / 校長 / 会計
1月12日(火)	MKW1,033,000 を JOCV が校長、学校運営委員長と会計に渡す。	JOCV / 校長 / 学校運営委員長 / 会計
1月13日(水)	ステークホルダー間で約束を取り交わす。	JOCV / 校長 / 教頭 / 学校運営委員長 / 副会長 / PTA 会長 / 副会長 / 母の会会長 / 会計 / 業者
1月14日(木)	MKW113,000 を JOCV が校長と会計に渡す。	JOCV / 校長 / 会計
1月18日(月)	MKW157,260 を JOCV が校長と会計に渡す。	JOCV / 校長 / 会計
1月26日(火)	バラカ県教育委員長、村のチーフを招待し、校舎修復完了式典を開催する。コミュニティに修復校舎を引き渡す。	バラカ県教育委員長 / 初等教育アドバイザーチーフ / JOCV / 校長 / 教頭 / 学校運営委員長 / 副会長 / PTA 会長 / 副会長 / 母の会会長 / 会計

#### その成果

4 教室が修復されたことにより、650 人の生徒を含む全校生徒 1200 人が教室の中で安全に授業を受けることが可能となった。これにより、強い日差し、雨、強風による砂嵐などから害を受けることなく児童・生徒は集中して授業を受ける環境が保障された。教員にとっても、指導する教室が確保されたことにより、指導に対するモチベーションが高まっている。今までは補助教材をつくって授業をするひと手間を「貼る場所がない」という理由で敬遠していたが、修復後は授業後の教材を掲示する場面が見られた。

問題となっていた児童生徒の無断欠席や本校から転校する生徒に関しては、修復後 1 週間で既に 10 人

の生徒が戻ってきており、学校には確実に以前の活気が戻ってきている。

学校、コミュニティを上げて大きな期待と希望を抱いているセカンダリースクール進学者輩出に関わる重要な卒業試験は 5 月に実施される。合格者を輩出するための手立てとして、今までは教員が試験対策などの指導をする方法しかなかった。しかし、修復後にはコミュニティからの協力が得られ、親の手伝いのために欠席する児童生徒に対する対策をとることが可能となった。チーフ、学校運営委員会、PTA、母の会、教員が会議を開き、マーケットに子どもを働きに行かせることが発覚した場合は本人ならびにその親に対して罰を与えることが決定した。これはチーフが明言してくれたものであるため、効力が大きいと期待している。

学ぶ環境が整ったことにより、JOCV 担当教科である表現芸術科目の実技も実施され始めている。1 月下旬には衣装作りの実技を実施し、2 月は鍵盤ハーモニカを用いた音楽の授業が実施される予定である。

最後に、修復作業後に校長と交わした会話の中から、修復作業の過程で学校側とコミュニティとの連携がうまく取れたおかげで、校舎の修復を通して児童生徒、教員がその恩恵を被っただけでなく、学校とコミュニティとの結束が以前に増して強固なものとなったことが伺えた。

#### 実施風景写真



▲ 実施作業に向けて話し合いをしているところ



▲ 修復プロジェクトについて約束を交わした後



▲ 修復後の教室棟 1 を見ているところ (正面)



▲ 修復後の教室棟 1 を見ているところ (背面)



▲ 修復後の教室棟 1 の内観



▲ 修復後の教室棟 3 の外観



▲ 修復後の教室棟 3 で授業を受ける生徒たち



▲ 修復作業に関わったコミュニティメンバー、学校関係者、生徒たちの集合写真

#### 今後の展望など

5 月に行われる 8 年生卒業試験や学校全体の教育の質改善に向けてコミュニティ・保護者・学校・生徒・JOCV 一丸となって取り組んでいく予定である。以下は校長先生より頂いたお礼状の日本語訳

#### 日本マラウイ協会御中

#### 御 礼

拝啓 厳寒の候、貴協会におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこのたびは私どもの校舎の屋根が吹き飛ぶという災害に際しまして皆さま方からのご援助を賜り、誠にありがたいことと、厚くお礼申し上げます。

皆さまから頂戴しましたご援助により 2 棟の校舎を修復することが出来ました。おかげさまで本校の児童生徒ならびに教員にとりまして有意義な学びの場を確保することが出来ました。

皆さまからのご厚意に心より感謝致しております。

末筆ながら皆様のご健康とますますのご発展をお祈りしております。

敬具

2016 年 1 月 26 日

リワワジ小学校校長 ベロニカ・カムウェンド  
P.O. Box 354 バラカ, マラウイ

**投稿**

**グローバルフェスタ JAPAN2015 に参加**

高橋 敦子

2015年10月3・4日にグローバルフェスタがお台場で開催されました。お天気に恵まれ、日比谷公園とは違った解放的な雰囲気の中で、MayJをはじめとするミュージシャン達のライブをBGMに聞きながら、この日のために新調したお揃いのオリジナルTシャツを着て参加しました。

テントでは、「マラウイ母の会」の皆様と一緒に、母の会手作りのチテンジバッグや小物、マラウイの木彫りの民芸品の販売と、マラウイの資料や写真を展示しました。マラウイに行ったことのある人、これから行く人が多く訪れてくださいました。交替で店番をしながら、各々、思い入れのある買い物(例えば、WFPのレッドカップや協力隊50周年記念のCD、各国の食べ物、お酒など)やイベントを楽しみました。私は、お祭り気分を楽しみながら、Tシャツ発案者の故竹谷綾子さんとほろ酔いでショッピングした事を懐かしく思い出しました。

2015年のテーマ、"Share the Happiness!" のように、同じ志や興味関心を共有する多くの人達と自身の体験を分かち合える幸せを感じられる、楽しいひとときになりました。

御尽力頂いた方に感謝いたします。



▲新調したTシャツを着て参加



▲マラウイ母の会の皆様で作ったチテンジバッグ



▲会場の様子

する謝辞をいただきました。イベントでは、50周年を記念して製作された青年海外協力隊ドキュメンタリーの上映、マラウイにおけるボランティア事業の紹介を行い、続く活動報告会では、農業、コミュニティ開発、教育、保健・医療分野の5名のボランティアがカウンターパートと共にそれぞれの活動について発表し、活発な質疑応答が行われました。

また、隊員による原爆・平和展、ボランティア有志による両国の国歌斉唱、音楽演奏、ソーラン節の披露を行い、アフリカの音楽演奏の際は隊員とマラウイ側のスタッフが一緒に踊る場面もあり、賑やかなひとときとなりました。最後に、現在活動中のマラウイのボランティアの活動や生活を撮影したスライドショーの上映を行い、物故隊員追悼の黙祷を捧げ閉会しました。



▲ボランティアによるマウイ国歌の斉唱



▲ボランティアによる日本の音楽演奏



▲隊員によるソーラン節の披露



▲隊員と配属先スタッフが踊りに飛び込み参加

会場には、JICA技術協力プロジェクトと連携して一村一品運動事務局で活動するデザインと品質管理のボランティアの成果物として、蜂蜜、パオパオイル、石鹸等を展示したところ、多くの参加者の関心を引いていました。また、原爆・平和展と日本紹介のポスターには、休憩時間やお昼休みに足を止めて見入っている参加者の姿が多く見られました。



▲原爆・平和展と日本紹介のポスター展示コーナー

1971年に7名の隊員派遣を皮切りに、2015年12月時点で累計1,744名のボランティアが派遣され、世界一の派遣数を誇るマラウイ。ボランティアがマラウイ各地の様々な分野でコミュニティの人々と共に社会の発展に尽くしてきた功績と、両国の友好に果たしてきた役割は高く評価されています。

協力隊50周年を契機に両国の相互理解がさらに深まり、次の50年に向け相互の繁栄を願っています。

**レポート 帰国隊員レポート**

**平成26年1次隊 障害者(児)支援 角田 直也**

配属先 バンダウエ聴覚障害児特別支援学校 (前マラウイボランティア会長)

私は、現職教員で参加し、カタペイの聴覚障害児支援学校で授業の補佐や個別指導、聴覚についての情報提供の活動を行いました。そこでは赴任直後に校長の異動があり、代わりに先生が見つからないまま早1年半が経過して、何が起るかわからないマラウイを早々に痛感させられました。

日本だったらこの反応が返ってくる!と思いながら投げかけた言葉も、思わぬ方向からのダメージを心に負うことも少なくなく、孤軍奮闘していました。3歩進んでは2歩下がる毎日でしたが、現地の人と関わり子ども達と勉強することは貴重な経験となりました。活動終盤では日本の学校と文化交流を何度か行い、国際教育や文化交流の面白さや大切さにも気づきました。今後は岡山に帰り一風変わった教師を続ける傍ら、こんな国際教育活動も続けていきたいとも思いました。



▲配属先の学校にて

加えて貴重な経験をさせてもらったのはマラウイでの日本人コミュニティでした。今まで関わりがなかった職種の人や、日本のコンビニ商品のようにレポートリーが豊富で様々な価値観を持った人たちと関わることで、自分の視野を広げ考えを

**投稿**

**青年海外協力隊発足 50周年記念イベント**

JICA マラウイ事務所 企画調査員 (ボランティア事業) 新関 郁子

2015年12月8日、リロングウェのキャピタルホテルにおいて青年海外協力隊発足50周年記念イベントを開催しました。イベントには、大統領・内閣府を始め、農業・灌漑・水開発省、教育・科学・技術省、保健省、労働・人材開発省などの各省庁や日本国大使館、国連ボランティアや米国平和部隊等の国際ボランティア団体の代表者、また現在活動中のボランティアが各配属先のカウンターパートらと共に参加し、約180名の参加者を得て盛会でした。

開会に際し、日本国大使館の中臣参事官、及び大統領・内閣府人事局ヒラリー・チモタ局長より、祝辞と長年にわたるJICAボランティアの貢献に対

深めることができました。このつながりを大切に  
して、日本でもお互いに刺激し合って切磋琢磨し、  
よりグローバルに、よりアクティビティに、より好  
奇心をもって生きていこうと思います。

こんな貴重な経験をさせていただいた、毎日何か  
ハプニングが起きるマラウイの方々、くだらないこ  
とで笑い合える隊員、帰国直前まで迷惑をかけても  
優しくした事務所の方々、日本で帰りを待っている  
であろうの方々。その全ての人とその出会いに感謝し、  
1年9か月の活動を終えようと思います。今後とも  
よろしくお願いたします。



▲ 2015年12月 隊員総会にて

## 訃報

### 竹谷稔子様 ご逝去について

日本マラウイ協会の定例会、あるいはシマを食べ  
る会に参加されたことがあるならご存知の方も多

と思いますが、当会の  
設立当初から事務長と  
して30年以上の長き  
にわたって尽力して下  
さいました、オシャレ  
な我々のお母さんであ  
る「竹谷さん」が平成  
28年1月30日午後9  
時ごろ、享年80歳に  
て御逝去されました。  
ここに故人のご冥福を  
お祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。



#### 『永久の惜別』

(日本マラウイ協会 専務理事：貝塚光宗)

【図らざりき計に接し 齋場に赴かんとは 弔客蕭然  
として一堂に会す 僧侶の読経永訣を悲しむ 遺影を  
追憶して無常に感ず】

故竹谷稔子様の通夜式(2月3日)及び葬儀告別  
式(2月4日)に、日本マラウイ協会関係者は20余  
名が参列しました。昭和58年2月26日、日本マ  
ラウイ協会設立以来、30有余年に亘り事務長とし  
て寄与された[故竹谷稔子様]に対し深甚なる哀悼  
の意を表した次第です。

顧みれば、弊社初期に発行した【国情紹介誌(初  
版)】及び【チェワ語辞典(初版)】作成の中心メンバ  
ーだった木内・三浦並びに鶴田理事等が、毎週末に  
は【恵比寿旅館/女将:竹谷稔子】に参集し資料収集

整理に悪戦苦闘している折、何くれと無くボラン  
ティア達の集いをボランティアしていた故竹谷稔子  
様の面影が走馬灯の如く脳裏を駆け巡ります…(旅  
館業なのに空部屋を無償提供してくれていた)…。

更に、青年海外協力隊事務局の登録旅館でもあ  
った【恵比寿旅館】には数多くの帰国隊員達が投宿し  
ていました。特に、バングラデシュ国の帰国隊員達  
は毎年の様にOB会を恵比寿旅館で開催していたこ  
とを記憶しています…(数名のOBが1年余に亘り長  
逗留していたのが縁となり)…。

事程左様に明るい性格で大変世話好きな方であ  
った。然し然り乍ら、生者必滅会者定離は世の常な  
るも小生如きは突然の悲報に驚愕した折より【散り  
ぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人  
なれ】と、独り酌みて静かに来し方・行く末を想う  
今日この頃です。 合 掌

## 日本マラウイ協会

### 2015年9月～2016年2月 主な活動内容

- | 日付              | 内容                       |
|-----------------|--------------------------|
| (1) 2015.9.24   | 9月定例会<br>機関誌KWACHA第54号発行 |
| (2) 2015.10.3.4 | グローバルフェスタ出展              |
| (3) 2015.10.29  | 10月定例会                   |
| (4) 2015.11.26  | 11月定例会                   |
| (5) 2015.12.19  | 納会&忘年会                   |
| (6) 2016.1.28   | 1月定例会                    |
| (7) 2016.2.25   | 2月定例会                    |



## 日本マラウイ協会情報



### ■ ご意見、ご質問をどうぞ

電子メールによる日本マラウイ協会からのお知らせを受け取りたい方、当会  
に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、  
E-mail: info@japan-malawi.org へご連絡ください。

### ■ 『新帰国隊員報告会/マラウイ国情セミナー/シマを食べる会』開催日 決定のお知らせ

マラウイ共和国独立52周年記念の上記イベントを今年も駐日マラウイ大使館と  
の共催で行います。

日 時 平成28年7月16日(土)

14:00～ 受付開始

14:30～ 新帰国隊員報告会

15:00～ 駐日マラウイ大使による国情セミナー

16:15～ シマを食べる会

場 所 JICA地球ひろば 6Fホールおよび2Fカフェ  
東京都新宿区市谷本村町10-5

JR中央線・総武線・東京メトロ有楽町線・都営地下鉄新宿線

「市ヶ谷」下車、徒歩10分

地図 <http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

参加費 一人3000円

(※当会会員、関係者の皆様には5月末に葉書にてご連絡致しますが、通知が届  
かなくても参加は可能です。参加希望の方は当会のメールアドレス  
E-mail: info@japan-malawi.org までお申込み下さい)

### ■ スマホでマラウイのラジオを聴く方法あります!

「Simple Radio」と「Tuneln Radio」という2つの無料アプリがありますが、  
中でも「Tuneln Radio」が画面の説明が日本語なので使いやすいです。「Tuneln  
Radio」を開いて、地域別→アフリカ→とタップするとアフリカの国名がずら一  
つと出てくるので、マラウイを探してタップすると以下のラジオ局の局名が出て  
きます。全部で8局あります。

ラジオ局: Radio Maria (Malawi), Zodiak Radio

ブランドイヤ(をタップすると下記が現れる):

Capatal FM Malawi, MBC Radio 1, MBC Radio 2,

Radio Islam (Malawi), Radio Maria (Malawi), YONECO FM

その中から聴きたい局をタップし、再度タップすると放送が聞こえてきます。  
Radio Maria (Malawi) ではよく、チェワ語で聴取者と会話している女性アナ  
ウンサーの声がきこえます。先方のインターネット環境が一番安定しているの

が、Radio Maria です。日本に居てマラウイの雰囲気十分楽しめます。まだ  
の方は是非一度試してみてください。(情報提供H.U)

### ■ KWACHAバックナンバー閲覧出来ます

当会は2016年2月26日に設立33周年を迎えましたが、設立時の機関紙  
KWACHA第1号から第55号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル  
化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

### ■ 日本マラウイ協会作成「チェワ語辞典」「統計資料集」電子版ご紹介

今後、より多くの方々へのチェワ語の情報提供を考え、当会が作成したチェ  
ワ語辞典を電子化し、当会のホームページから自由に閲覧可能となりました。  
ご興味のある方はご覧ください。また、マラウイ独立50周年を記念し、当会統  
計班がマラウイ独立からの時系列の英文統計集を編集しました。多くのマラウ  
イと日本の皆様にご利用くださることを望んでいます。

### ■ 日本マラウイ協会 月次定例会にお越しください

日本マラウイ協会では、原則毎月最終木曜日、19:00～、東京都内(原則:  
新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールーム)で、月次定例会を開催し、マ  
ラウイ関連の支援活動についての討議や、マラウイ関係者間の情報交換を行っ  
ております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。なお、  
開催日等は突然変更になる場合もありますので事前に当会までお問い合わせく  
ださい。

### ■ 日本マラウイ協会 入会方法等

当会ホームページのトップページの「入会案内」のアイコンをクリックすると  
メールフォーマットが出てきますので、所要事項を入力して送信してください。  
また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000  
円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。継続会員の方の年会費(個  
人正会員の場合3,000円)は、E-mailでご連絡の上、お送りください。いずれ  
もどちらの口座に送金するかE-mailでお知らせください。

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739

口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

当座預金口座 0013125

口座名義: 日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号:00190-7-13125)